第２期子ども・子育て支援事業計画　施策体系（骨子案）

審議・調査事項１－２

足立区基本計画

親支援　子支援

自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人

	施策	施策の方向性（新）	施策の方向性（旧）	ニーズ調査・内部評価・関連計画等の現状・課題や国の方針
1 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む〈子支援〉	1 子どもの心身の健全な発達の支援	・食育、歯科への取組みや読書習慣、運動あそびなど、子どもの心と体の基盤となる生活習慣づくりを推進します。	・健康や食の大切さを伝えることで、子どもたちの豊かな心と健やかな身体を育みます。	○むし歯や肥満などの課題がある子どもの割合が高くなっている。 ○読書習慣の大切さに気づき、本に親しむ機会の確保が必要である。
	2 就学前からの学びの基礎づくり	・乳幼児期の教育・保育内容の質の向上により、小学校教育へつながる子どもたちの学びの基礎づくりを推進します。	・保育者等の資質能力向上を図る研修や幼保小連携活動の推進により、就学前教育の充実を図ります。	○子どもの発達に応じた質の高い教育・保育が求められている。
	3 特別な支援を要する子どもの状況に応じた支援の充実	・発達障がいなど様々な悩みや課題を抱える子どもたちが、それぞれの特性に応じた支援が受けられるように、支援体制を充実します。	・特別な配慮を必要とする子どもなど、子ども一人ひとりの環境や状況に応じた支援が受けられるよう、支援体制の充実を図ります。	○発達障がいを含む発達に関する悩みや心配ごとが増加傾向。 ○外国につながる幼児への支援・配慮
	4 子どもが社会と関わる力を育むための成長支援	・家庭や地域と連携しながら、様々な学び、体験の場を広げ子どもたちが自らの可能性を見つけ、伸ばしていく支援をします。	・家庭や地域と連携しながら、様々な学び、体験の場を広げ、子ども・若者の成長を支えます。	○放課後過ごしている場所について、１～３年生において、放課後子ども教室や学童保育が増加している。 ○子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長を支援することは今後も必要である。
2 妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える〈親支援〉	1 妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実	・子育て支援を充実し、安心して妊娠、出産、子育てができるよう、切れ目なく支えていきます。 ・子育てサービスを適切・円滑に利用できるよう、親子の居場所や交流の場などの情報提供や悩みの相談環境の充実を図ります。	・安心して妊娠、出産、子育てができるよう、一貫した支援を行います。また、母子の良好な健康状態を保つための健診のしくみづくりを推進します。	○子育てについて相談できる人・場所がない母親が依然としてみられる。 ○子育てについて、「辛いと感じることが多い」保護者が 2%ほど見られる。
	2 子育てと仕事の両立支援	・多様な働き方を背景とした保護者の保育ニーズに応じた教育・保育サービスを確保します。	・保護者が仕事と子育てを両立できるよう保育施設の整備を進めるとともに、ニーズに沿った保育サービスの充実を図ります。また、保育サービスを適切かつ円滑に利用できるよう、情報提供や相談体制の充実を図ります。	○未就学児の母親においても就労している人、今後就労を希望している母親が増えている。 ○平日の定期的な教育・保育事業を利用している割合は増加しており、特に認可保育所の利用が高まっている。
	3 困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止	・困難を抱える子育て家庭に向けて、経済的支援をはじめ、親と子どもに寄り添った様々な支援を行います。 ・児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応等のため、地域におけるきめ細かな対応ができる体制の充実を進めます。	・困難を抱える子育て家庭の相談に応じたり、経済的支援をはじめ、親と子どもに寄り添った様々な支援を行います。	○ひとり親家庭の相対的貧困率は 50.8%と高く、困難を抱える子育て家庭への支援は必要 ○児童虐待受理は、近年、受理件数、虐待件数ともに増加している。
	4 安全・安心に子育てのできる生活環境の整備	・妊産婦、子育て家庭等全ての人たちが安全・安心に外出できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを推進していきます。	・妊産婦、子育て家庭等全ての人たちが安心して外出できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立った福祉のまちづくりを推進するとともに、ハード・ソフトの両面から一体的にバリアフリー化を進めていきます。	○子育てしやすいまちだと思わない理由は、「事故や犯罪が多く安全ではない」が多い。

施策展開の横断的な視点

①子育て支援の質の向上

②ライフステージ間のつなぎの強化